

平成30年 4月

平成30年度 保護者会資料

東村山市立東村山第一中学校  
校長 深谷 恭司

## 学校経営抜粋

### 1、東村山市教育委員会 教育目標

東村山市教育委員会は、子供たちが、知性、感性、道徳心や体力を育み、人間性豊かに成長することを願い、

- 互いの生命及び人格を尊重し、思いやりと規範意識をもって行動する人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び自ら考えて行動する、個性と創造力豊かな人間

の育成に向けた教育を重視する。

また、学校教育及び社会教育を充実し、誰もが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことができる社会の実現を図る。

そして、教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行われなければならないものであるとの認識に立って、全ての市民が教育に参加することを目指していく。

- ①共創；学校と保護者・地域・行政が一体となり、学校の特色を生かした教育活動を創造。
- ②連環；環を連ねることで、学校と関係諸機関との連携をより強化。
  - ・社会情勢や保護者の意識の変容を的確に捉え、情報を相互に共有しながら課題の克服に努め、公立学校としての使命を果たす。

### 2、本校の教育目標

- よく考え自ら学ぶ人となろう [自主]
  - ・自ら考え正しく判断し、責任をもって自主的に行動できる生徒を育成する。
  - ・教育活動全体を通して、一人一人が活躍できる機会を設け活動の意欲を高める。
  - ・評価や課題、改善点を丁寧に説明し自ら改善に向けて努力する生徒を育成する。
- 広く他を思いやる人となろう [思いやり]
  - ・全ての教育活動及び集団生活の基本である「規範意識の確立」を図る。
  - ・学習環境や人的環境を整備し、常に良好な人間関係を構築し、豊かな思いやりの心を育てる。
  - ・個人の努力やがんばりが、集団生活の中で評価され報われるよう支援していく。
  - ・特別支援学級設置校の特性を活かし、障がいのある人の心情に即した心情を育てる。

○明るく心身共に健康な人となろう [健康]

- ・「頭（知力）心（徳力）体（体力）」をバランスよく鍛え高める機会を設ける。
- ・個々の能力に応じて挑戦する機会を通し、困難に立ち向かう強くたくましい心身を育てる。
- ・挨拶の響く学校作りを推進し、更なる礼儀やマナーの向上と自治活動を高める。

### 3、目指す学校像

- 生徒が自ら学業に励み、自他を認め、友と楽しく生活ができる学校
- 安全で安心して子どもを任せられる、家庭から信頼される学校
- 子どもたちを支え、地域から支援される開かれた学校
- 人権尊重を基盤とし、生徒と向き合い、温かい指導ができる学校

### 4、重点目標

○特別支援教育の推進と保護者連携

個別に特別な支援を要する生徒への生活・学習支援を強化するために、保護者と緊密に連携し、個別支援計画及び個別指導計画に基づき、より一層個に応じた支援を推進する。

○生徒・教職員の人権感覚向上

お互いの違いを認め尊重しあう豊かな心と、人権感覚をはぐくみ主体的に学び考える中で、自己が正しく判断しながら自主・自律的に行動や表現ができる生徒を育成する。いじめ0、不登校0を目指す。

○指導方法の工夫による学力向上

学校での集団生活の基本である「規範意識の確立」を図り、わかる授業を工夫し、一人一人の生徒の実態に応じた学習支援を一層充実させ、学力の向上を図る。

○サービス事故の予防と安全管理

サービス事故（体罰事故・会計事故や学習管理など）予防の徹底を図り、教育公務員としての信頼と職責の遂行に全力を注ぎ、生徒・保護者・地域・教育行政の信頼に応える。

○誠実で敏速な保護者・地域対応

生徒や保護者と教職員（学校）と、良好な人間関係を保持するために、質問・意見・要望等については、報告・連絡・相談を徹底し、校内の調整を図り誠実にかつ敏速な対応を心がける。

### 5、特色ある学校づくり

- 生徒も教職員もよく挨拶ができる。
- 自主・自立の精神に基づく生徒会活動が活発である。
- 学校行事を地域と一体になって実施する。
- 部活動が盛んである。
- 生徒に明るさと活気がある。
- 地域に支援され地域と密着した教育活動を実践する。
- 思いやりに富みいじめがなく安心して生活できる。